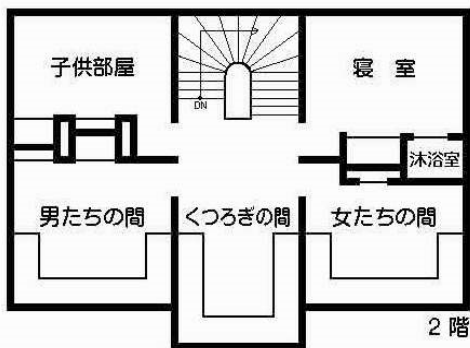


「トルコ イスタンブールの街」^{まち}

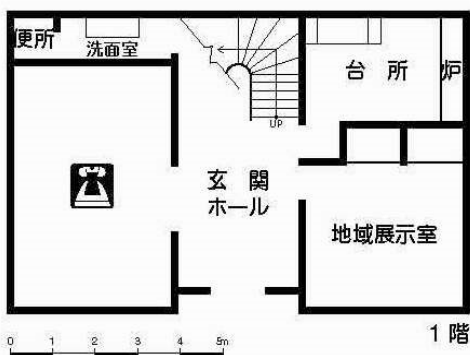
こらい じゅうじろ さか
 古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、
 イスタンブール。1600年もの間、いくつかの^{ていこく しゅふ}帝国の首都で
 あった^{きゅうしがい}旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されてい
 ます。ここに^{ふくげん}復元した伝統的民家は今も旧市街にたち活用さ
 れている建物をモデルとしています。

展示家屋「イスタンブールの民家」



【家族をつなぐソファとセディル】

くると階段を上った
 2階が生活空間です。あがり
 きたところはソファと呼ばれ、
 2階の各部屋を^{れんけつ}連結する^{やくめ}役目を
 になう重要な空間です。



ソファに連続して、エイバンと
 いうくつろぎの間、もてなしの場
 があります。マットレスを敷き
 詰めた作りつけのベンチは、
 セディルといいます。

セディルは、トルコの伝統的民家
 には^か欠かせないものです。

民家建築情報

木造3階建て住居（3階部分は屋根裏としており、展示はありません）
 建築面積 76.06 m²（約23坪） 延べ面積 146.82 m²（約44.5坪）


かつての高級住宅街の家

復元ふくげんのモデルとした民家は、19世紀末にスレイマニエ・モスクのそばたに建てられたものです。残念ながら、誰が建てた家かは判りわかません。しかし、近隣にはオスマン帝国ていこくの地方けんちじの県知事がイスタンブールで宿泊しゅくはくし、客人きやくじんをもてなすための建物があり、その建築年代も同時期なので、19世紀末当時は高級官僚かんりようなど富裕層ふゆうそうが暮らす住宅街であったと考えられます。

イスタンブールは、7つの丘の上おかにたつ街といわれていますが、そのひとつがスレイマニエ・モスクのある丘みはです。見晴らしも良く、風通かぜとおしも良い丘の上しやうしゃの瀟洒な家屋。この家の持ち主も、それなりの地位の人、そしてそれなりのお金持かねもちであったと想像されます。

ナザールボンジュ Nazar Boncuğu

民家げんかんの玄関めだまの上には、目玉をかたどった青いガラス玉がかかっています。トルコ語でナザールボンジュというお守りです。ナザールが「目」、ボンジュが「ガラス玉」を意味し、この家の人たちへの「ねたみ」、「そねみ」、「うらみ」といった悪意あくいをもった視線しせんを避ける、除けるためのものです。この悪意をもった視線を邪視じゃしとよびますが、意識して投げる邪視だけでなく、無意識に投げかける邪視もあり、容易きに避けることはできません。そうした邪視を避けるために、トルコの人びとは質素しつそな生活を心がけているのですが、どこからこうした悪意を受けるかわからないために、青い目玉のお守りを家の壁にかける習慣をもつのです。

 トルコのお土産店みやげてん「ラーレ」には、いろいろな形のナザールボンジュがあります。ぜひ、ご自分のために、あるいはおみやげに、お求めください。